

東武實錄

二十四

内閣文庫	
番號	和 36646
冊數	21 (20)
函號	150 16

内閣文庫			
五〇函	二	三十三冊	和書類
五	一	三十三冊	和書類
架	冊	號	類

(口二才)



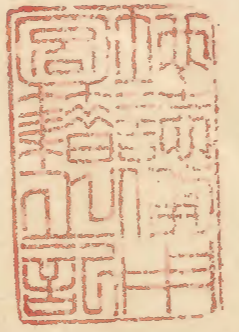
Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak





東武實録卷第三十四

寛永八年

四月朔日

自四月至十二月

島津又三郎中納言家久男

將軍家ヨリ御諱ノ字松平氏ヲ賜テ松平薩摩守光

人ト号シ從四位下ニ叙シ侍從ニ任ス父薩摩守家

久大隅守ニ改ム島津又十郎久直中納言家久三男從五位

下ニ叙シ式部大輔ニ任ス島津越後忠紀中納言家久六男

從五位下ニ叙シ玄蕃頭ニ任ス此面々御本城

登テ



將軍家ニ謁ス太刀一腰 国吉 白銀三百枚 吳服十重 薩摩守光久是ヲ献ス

將軍家ヨリ御腰物光文ヲ光久ニ賜ル太刀一腰 白銀

二百枚 吳服五重大隅守家久是ヲ献ス

將軍家ヨリ御腰物光包ヲ家久ニ賜ル

太刀一腰 白銀百枚 吳服五重 式部大捕久直是ヲ献

ス

將軍家ヨリ御腰物包永ヲ久直ニ賜ル太刀一腰 白銀

百枚 吳服五重 玄蕃頭忠紀是ヲ献ス

將軍家ヨリ御腰物元重ヲ玄蕃頭忠紀ニ賜ル 事畢テ

退出 西ノ丸ニ登營

公ニ謁ス太刀一腰 吳服五重 白銀二百枚 馬一疋 目錄

ヲ以テ大隅守家久是ヲ献ス太刀一腰助吉 吳服十

重 白銀二千枚 馬一疋 薩摩守光久 目錄ヲ以テ是ヲ

献ス 右畢テ式部大捕久直 太刀一腰 白銀百枚 吳服

五重是ヲ献ス 玄蕃頭忠紀 太刀一腰 白銀百枚 吳服

五重是ヲ献ス 酒井阿波守忠行是ヲ披露ス 事畢テ

家久 光久 着座 御酌 本多美作守忠 相御 加太田采女

正資宗 御土器 酒井下総守忠 正御引渡大隅守ハ三方薩摩

足守ハ本多美作守忠 相是ヲ役ス 御土器 御前ニ

召シ上ケラレ家久是ヲ頂戴ス時ニ御脇指丸文ヲ

家久ニ賜ル

公御手ツカフ御着ヲ家久ニ下サレ別ノ御土器ニテ

召シ上ケラレ光久是ヲ頂戴ス時ニ御腰物丸文ヲ

光久ニ賜リ

公御手ツカフ御着ヲ光久ニ下サレ此間ニ御土器ニ

ツチ出ス此御土器ニテ

公召シ上ケラレ式部大捕久直頂戴ス時御腰物国綱

ヲ久直ニ賜リ土器ヲ以テ退座ス

公別ニ御土器ニテ召シ上ケラレ玄蕃頭忠紀是ヲ

頂戴ス時ニ御腰物長ヲ忠紀ニ賜ル御銚子中段ニ

扣ヘ是アル時右ノ面々退座大隅守薩摩守ハ着座

御着ヲ下サレス右ノ四輩退出以後島津下野守

伊勢兵部并謁事畢テ入御アリ御料理ノ間ニ於

テ大僧正天海謁ス

同十八日絹細布木綿等ノ丈尺ノ定法ヲ仰

出サレ

定

一 絹細布

一 是瑞舟長廿六工子子之六日尺もく是尺四寸
事

一 布亦綿之事

是瑞舟長廿六工子子之六日尺もく是尺四寸
事

右織物寸法如無沙定上長もく不足絹布
賣作にわめて八見合の取之也

寛永八年四月十八日

同二十七日 今度加州金澤焼失ニ依テ高木筑

後守家政ヲ 御使トシテ松平肥前守利常ニ御給

二百御夜着ニツ御蒲團ニツ御蚊帳ニツ御屏風ニ

雙雪舟ヲ賜ル

駿河大納言忠長卿頃年病氣ニ依テ此春ノ秀ヨリ

両君ノ 命ニ付キ閑居ス

公忠長卿ノ家臣朝倉筑後守宣正ヲ召シテ 命有テ

曰ク宣正ハ始ヨリ忠長卿ノ後見トシテ附屬セウ

ル然ル處ニ忠長卿近年病氣ニ依テ其儀正シカウ

ス何ゾ是ヲ諫言セサル其誤リ控カラサルノ

御旨ニテ酒井阿波守忠行ニ預ケラレ忠行カ別墅

ニ押シ籠メラル忠長卿此事ヲ聞テ大ニ悲歎シテ
尾張丞相義直卿水戸黃門頼房卿天樹院殿ノ御方
ヲ以テ宣正全ク是非ヲ知ラス唯忠長一身ノ誤リ
ナリ宣正ヲ赦免有テ忠長其罪ニ行ハルヘキノ旨
ヲ愁訴アリ此趣 台聽ニ達ス是ニ依テ忠長卿病
氣養生ノ間家臣鳥居淡路守カ領内甲州ニ蟄居ス
ヘキノ由 鈞命ニ依テ忠長卿江戸ヲ發シ甲州ニ
赴ク後朝倉筑後守宣正赦免ヲ蒙リ 召シテ登
營シ

公ニ謁ス時ニ 命有テ曰ク宣正駿州ニ歸テ國中ノ

割沓府中ノ諸士ヲ指揮スヘキノ 御旨ヲ蒙リ御
暇ヲ賜ル時ニ吳服黃金御馬ヲ宣正ニ賜テ駿州ニ
赴ク鳥居淡路守ヲ 召シテ汝ハ江戸ニ留テ忠
長卿ノ室 藏田兵部少 及ヒ屋地ヲ守ルヘキノ由
ヲ命セラル三枝伊豆守屋代越中守奥津河内守天
野傳右衛門大久保將監内藤仁兵衛日向半兵衛村
上三右衛門等ハ交代シテ甲府ニ相詰ヘシ渡邊監
物松平壹岐守松平志摩守朝比奈弥太郎四人ノ大
番頭ハ駿府ノ城及ヒ甲州交々勤番スヘキノ旨
仰出サレ

五月五日 辰ノ上尅

公御座ノ間ニ 出御アリ御盃本多美作守忠相御粽

御三方ニ酒井阿波守忠行御酌菅蒲本多美作守忠

相御加太田采女正資宗御祝ノ御膳阿波守忠行是

ヲ役ス御引替リ御膳ヲ献ス御祝ノ御膳過テ後

將軍家西ノ丸ニ 渡御アリ御酌本多美作守忠相御

粽御三方ニ酒井阿波守忠行是ヲ役ス

公ニ本多美作守忠相

將軍家ニ鳥居石見守忠頼是ヲ取テ献ス御慰斗鳥居

石見守忠頼御酌本多美作守忠相御加太田采女正

資宗御盃

公召シ上ケラレ

將軍家工進セラル其御盃

公御納メ御銚子入ル

將軍家還御以後尾張相義直郷水戸黄門頼房郷松

平越後守光長松平千勝松平宮松井伊辨之助井伊

万千代登營

公ニ謁ス御慰斗出ル各退出後御小廣間ニ 出御諸

御禮例年ノ如シ

同七日

將軍家明後九日尾張大納言義直卿ノ亭ニ 渡御ニ
依テ御相伴タルヘキ由阿部豊後守忠秋ヲ 御使
トシテ水戸中納言頼房卿ニ仰遣ハサレ御礼ト
シテ頼房卿登 城

同九日

將軍家尾張大納言義直卿ノ亭ニ 渡御アルニ依テ
水戸黃門頼房卿立花飛驒守宗茂御相伴トシテ義
直卿ノ家ニ豫參數寄屋ニ 入御ノ時供奉ス數寄
屋ノ道具公ル二月二十九日
公御遊ノ時ニ同シ御膳 召シ上ケラレ御鉈子出初

献ニ献御各盞三献ノ時御盃ヲ大納言義直卿ニ賜
ル其盃

將軍家召シ上ケラレ中納言頼房卿頂戴爰ニ於テ土
井大炊頭利勝ヲ 召シテ御勝手方ヨリ出座ス
台命ニ依テ利勝頼房卿ノ盃ヲ賜リ納ル 御中立
有テ御花白木蓮華 姫百合草

將軍家遊ハサレテ後御茶ヲ献ス
將軍家召シ上ケラレ亞相義直卿黃門頼房卿立花飛
驒守宗茂ニ至テ賜リ納メ後茶入 台覽事終テ書
院ニ 出御猿樂 上覽アリ能五番過テ後御座ノ

間ニ入御御膳ヲ献ス初献ニ献御各盞三献ノ時
相應院ノ御方ヨリ御盃ノ臺ヲ献上ス此御盃ニテ
將軍家召之上ケラレ義直卿ニ賜ル時ニ御脇指ヲ義
直ニ下サレ其盃

將軍家召之上ケラレ飛驒守宗茂頂戴シ賜リ納メ事
畢テ又書院ニ出御猿樂上覽能過テ後還御
義直卿御礼トシテ御本城西ノ丸ニ登城頼
房卿同ク登營ス

同十五日 仲山主馬吉勝備前守
信吉男

將軍家ニ奉仕ス

同二十日 德隣法眼卒ス四十一歳

同二十一日 堀田加賀守正盛御小姓組ノ番頭
ヲ兼役ス

六月三日

公御本丸ニ来臨有リ御鬘斗出頓テ二ノ丸御泉水
ノ御茶屋ニ渡御本光國師立花飛驒守宗茂御
前ニ伺候ス御鬘斗出是ヲ引ノ後御膳ヲ献セラル
將軍家次ニ大納言義直卿中納言頼房卿御相伴御盃

御九ノ方
是ヲ置御膳ヲ出ス御給仕本多美作守忠相酒井
下総守忠正太田采女正資宗鳥居石見守忠頼是ヲ
勤ム御銚子御加出ル
公召シ上ケラレ
將軍家次ニ義直郷頼房郷何レモ御各盞二献
將軍家御始ル

公召シ上ケラレ義直頼房二郷何レモ御各盞御銚子
入ル三献御置キ盃
公召シ上ケラレ
將軍家工進セラレ其御盃

公召シ上ケラレ時ニ
將軍家御肴ヲ進セラル其御盃義直郷頂戴時ニ
將軍家御肴ヲ賜ル其盃
公召シ上ケラレ頼房郷頂戴時ニ
將軍家御肴ヲ下サレ其盃
公御納メ御銚子御盃御膳是ヲ引キ御茶菓子出其後
御囲ニ入御亜相義直郷黃門頼房郷木光國師立
花宗茂等供奉ス

御囲御道具

一 御掛物 御掛物 定家色紙

一 御釜 御釜 芦屋

一 御水指 御水指 烏帽子箱

一 御茶入 御茶入 オケ頭巾

一 御茶碗 御茶碗 割高臺

一 御茶入 御茶入 蓮華 御花白 刀子ノ物

御茶

公召シ上ケラレ

將軍家ニ進セラレ義直卿頼房卿國師飛騨守宗茂賜

リ納メ釣殿ニ成ラセラレ御菓子 楊杏 御薄茶ヲ

献ス事畢テ御本丸ニ渡御義直頼房ニ卿御

先工参ルヘキ由命アルニ依テ御先ニ登營

ス

公御本城ニ來臨御小廣間ニ出御猿樂 上覽ア

リ御能初酒并雅樂頭忠世是ヲ役ス

御能組

高砂

觀世大夫

籠

七大夫

杜若

七大夫

谷行

今春大夫

天鼓

七大夫

善知鳥

今春大夫

御乞能自然居士

七大夫

祝言

觀世大夫

御能四番過テ由御座ノ間ニ御中入アリ御置盃
御膳常ノ如シ初ニ献御各盞御吸物二度三献ノ時
御吸物出御盃

公召シ上ケラレ

將軍家御頂戴時ニ

公御看ヲ進セラル其御盃義直卿頂戴時ニ

公御看ヲ義直卿ニ賜ル其盃

將軍家召シ上ケラレ賴房卿頂戴時ニ

將軍家御看ヲ賴房卿ニ賜ル其盃

將軍家御納メ何レモ御加アリ事畢テ

公御小廣間ニ出御有テ猿樂上覽アリ御能過テ

後末ノ尅

公西ノ丸ニ還御

將軍家今日御成リノ御礼トシテ 西ノ九ニ 渡

御御座ノ間ニ於テ

公ニ 御對顔アリ

同六日 尾張大納言義直卿ニ帰國ノ御暇ヲ賜

ル義直卿 西ノ九ニ登 營

公ニ謁ス 御座ノ間ニ於テ美膳ヲ賜ル相伴水戸中

納言頼房卿御置キ盃太田采女正資宗御膳ノ御給

仕本多美作守忠相鳥居石見守忠頼酒井下総守忠

正御酌下総守忠正御加美作守忠相

公召シ上ケラレ義直卿頼房卿何レモ順盞御吸物出

ル右ノ輩御給仕ニ献右ニ同御吸物出御給仕同前
三献

公召シ上ケラレ義直卿頂戴

公御肴ヲ義直卿ニ賜ル其盃

公召シ上ケラレ頼房卿頂戴

公御肴ヲ頼房卿ニ賜ル其盃

公召シ上ケラレ御納メ御銚子御盃御膳ヲ引ク時ニ

鶴捉ノ蒼鷹并黃鷹御馬ニ足義直卿ニ賜ル義直卿

ノ家臣竹腰山城守信行成瀬隼人正正成紀伊亜相

頼宣卿ノ家老水野淡路守重良御料理ノ間ニ於テ

美膳ヲ賜ル竹腰源太郎阿部河内守瀧川豊前守寺
尾丸馬助渡邊四郎三郎長野數馬平岩弥右衛門山
下豊後上田忠右衛門石川勘解由大道寺出雲正意
玄益等御小廣間ノ大廊下ニ於テ美膳ヲ賜ル御暑
衣十御羽織白銀百枚竹腰山城守信行ニ賜ル御暑
衣御羽織成瀬隼人正正成ニ賜ル山城守隼人正源
太郎御前ニ於テ御馬ヲ賜ル御暑衣六御羽織阿
部河内守ニ賜ル御暑衣六御羽織瀧川豊前守ニ賜
ル御暑衣六御羽織寺尾丸馬助ニ賜ル御暑衣五御
羽織渡邊四郎三郎ニ賜ル御暑衣五宛御羽織長野

數馬平岩弥右衛門山下豊後上田忠右衛門石川勘
解由大道寺出雲等ニ賜ル御暑衣五宛御羽織正意
玄益ニ賜ル御書院ニ於テ并戴ス酒井阿波守忠行
是ヲ申シ渡ス紀伊亜相頼宣郷ノ家臣水野淡路守
重良御暇ヲ賜リ御暑衣十御羽織御前ニ於テ御
馬ヲ下サル各退出則御礼トシテ義直郷登 菅竹
腰山城守信行成瀬隼人正正成水野淡路守重良御
暇ヲ賜ルノ時乘輿御免有リ
同十八日 鳥居土佐守成次卒ス 忠長郷六十一歳
同二十三日

公御不例ニ依テ玄治登 菅御脉ヲ窺ヒ御丸薬ヲ

召シ上ケテ

同二十四日

將軍家西ノ丸ニ 渡御

是日 道三玄治御脉ヲ窺フ

同二十五日 道三玄治御脉ヲ窺フ

是日 神谷左太郎正次小右工門伊郷六十郎直

信後新右工門成盛男始テ

將軍家ニ謁ス

同二十六日 道三玄治御脉ヲ窺フ

是日

將軍家西ノ丸ニ 渡御

是日 杉浦吉左衛門昌重御腰物持ノ役トナル

元大御番

同二十七日 道三玄治御脉ヲ窺フ

同二十八日

公御不豫ニ依テ今日月次ノ御礼是ナシ

同二十九日 道三玄治御脉ヲ窺フ

是日

將軍家西ノ丸ニ 渡御今朝道三驢甚玄治御脉ヲ窺フ

是日 申ノ尅名越御被ノ具ヲ献ス

公御座ノ間ニ 出御御半袴 御作法例年ノ如シ酒井阿

波守忠行是ヲ役シ本多美作守忠相太田采女正資

宗永并式部少捕直重土屋民部少捕利直等

是ヲ勤ム

七月朔日 御不例ニ依テ今日御禮是ナシ水戸黄

門頼房郷登 宮御座ノ間ニ於テ

公ニ謁シ退出以後松平越後守光長松平仙勝松平宮

松井伊辨之助登 城拜謁ス

是日 午ノ后尅

將軍家西ノ丸ニ 渡御

公慶安ヲ 召シテ御腹ヲ窺ヒ銀針ヲ御腹ニタツル

同二日 玄治御脉ヲ窺フ

是日 午ノ尅慶安御針ヲ御腹ニタツル

同三日 道三玄治御脉ヲ窺フ

是日

將軍家西ノ丸ニ 渡御

是日 午ノ尅慶安ヲ 召シテ御針ヲタツル

同四日 道三玄治御脉ヲ窺フ

是日 己ノ尅慶安御針ヲタツル



同五日 道日玄治御脉ヲ窺フ

是日 午ノ中尅慶安御針ヲ夕ツル

同六日 巳ノ尅

將軍家西ノ丸ニ渡御

是月 松平右京大夫政綱池田三左エ卒又嗣子

ナキニ依テ政綱カ遺領赤穂郡ヲ兄宮内少捕忠雄

ニ賜ル時ニ忠雄言上シテ云ク弟輝澄輝與二人カ

領地多カラス政綱カ遺領ヲ彼等二人ニ分ケ賜ラ

ニ事ヲ請フ

公台聽ニ達シ忠雄カ願ニ任セラレ政綱カ遺領赤穂

郡ヲ以テ輝澄輝與ニ分ケ賜ル

八月十日 本多美濃守忠政

公ノ御不例ヲ聞テ播州姫路ヨリ急ニ江戸ニ馳セ着

キ即日卒去ス五十七歳忠政カ嫡子中務大捕忠刻

寛永三年父ニ先立テ卒ス三十一歳是ニ依テ二男甲斐

守政朝ニ父忠政カ家督播州姫路ノ城米地十五万

石賜ル是ヨリ先キ元和元年政朝伯父出雲守忠朝

野ノ城ニ移ル同三年播州籠

九月十二日 加藤左馬助嘉明從四位卒ス六十

九歳

同十五日

九鬼長門守守隆卒ス六十歳

同十八日

公御不例ニ依テ武田道安ヲ 召シテ江戸ニ着府ス

同二十一日

御代官ノ面々ニ相觸レラルル趣

光

女弟貞子亦不審成志を知らず何事相
越作事望を以て早着候に事何れは
縦後日少作とも知らぬ等事不
及沙汰まつて下すの事しるは曲り候

の越と申ものを捕らむとも其人より
察員の下りもして急交の事下自然禮
物を出し可渡と申候に申すも捕まの
上金銀並錢何れも申物一信可下
し。

右に級沙代官不申候て申付者也

寛永八年未九月廿一日

長谷川彦治郎

長田森之助

山田控右衛門

小泉久保
九茂無之節
布籠孫之節
白舟將監
弓官去之節
大搦長之節
大忌之節
揖雙之節
大忌忠之節
松浦内之節

阪之金之節
小泉次之節
弓官之節
小情之節
服部之節
戸田之節
杉下之節
坪井之節
中野之節
倉持之節

小岩 ゆくの橋

市川 河郷

沙料 川俣

芝 金町

宍富 杉戸

武州小佛 大戸

上州准水 房川

中田

是月 堀式部少捕直之江戸町奉行卜十儿 同十七年正月

寺社奉行
卜十儿

閏十月三日 依田肥前守信政御先年ノ頭卜十

儿 与力ノ士五騎
足輕三十人

同九日 竹中丹後守重門卒又五十九歳其子左

京重常 後越中守
任ス 父重門力遺領濃州ニ於テ采地六

千石賜儿

同十一日 森對馬守重政 初名次
郎兵衛 御使番卜十儿

同十八日 武州柄間村采地五千石内藤外記正

重ニ賜儿是祖父四郎左衛門正成力舊領也 四郎左
工門正

成力采地ヲ甚一即正負力弟右京進ニ賜儿右京進
率シテ後其子圖書ニ是ヲ賜儿ノ處ニ圖書命ニ

背テ改易セラル今祖父四郎左エ門カ忠功ヲ思
召シ出サレ且ツ外記正重勤仕怠ラサルニ依テ彼
重ニ賜ル

十一月朔日 藤掛三藏永重卒ス三十七歳

同五日 仰出サレ趣

光

一 流傳存事

福を賜ニまゝのよゝゝ為物着目せしむ

同十 若櫻ノ葉何ハ付来ニ以月報目せしむ

別名ノ事

一 小去自分とて侍成り有終る

名ノ人トお断及ニ意度曲事ノ可付

事

一 家造作并振舞以下不依何事とて限

不お通とて及侍の也他者ノ振舞ハ世

心希合定のこと多行爲事

一 右ノ相守世名也

寛永八年未上月廿日

同十六日 台命ニ依テ水戸中納言頼房卿ノ娘

才榮勝院養テ子トス

同二十二日 最上源五郎義俊卒ス二十六歳其

子義知幼年タルニ依テ家人等相議シテ義俊カ領

地江州三州一万石ノ采地三州ノ地五千石ヲ差シ

上ケ義知江州ノ地五千石ヲ以テ願ヒ領ス

同二十六日 九鬼長助貞隆長門守守

是月 松平織部忠利後壹岐守ニ任ス采地千石

ヲ賜ル

是月 伊勢十大夫貞政作十郎始テ

將軍家ニ謁ス

十二月十日 三好爲三卒ス俗名因幡守一任

是日 延壽院玄朔卒ス八十三歳其孫玄鎮ニ祖

父玄朔父玄鑑カ領地ヲ并テ千二百石賜ル

同十三日 本多大隅守忠純佐渡守正卒ス四十

六歳其子大學助忠次寛永三年父忠純ニ先立テ卒

去スルノ間忠純カ兄安房守正重カ男ヲ養テ忠紀

子トシテ家督ヲ継カシム

是日 牧野能登朝成駿河守忠卒ス十三歳

同二十六日 國領半兵衛一吉卒ス七十歳

同二十七日 井伊万千代益之右近大夫從五位

下ニ叙シ兵部少捕ニ任ス

是日松平利次肥前守利常カニ男従四位下侍従ニ任シ

淡路守ト號ス元無官

是日酒井忠朝讚岐守忠勝嫡子従五位下ニ叙シ備後

守ニ任ス

是日酒井忠次備後守忠利五男従五位下ニ叙シ藏人

頭ニ任ス

是日渡邊半兵衛勝綱布衣ニ任ス

同二十九日松平氏信紀伊守家信三男従五位下ニ叙

シ修理亮ニ任ス

同晦日井伊直滋掃部頭直孝男従四位下ニ叙シ侍従

ニ任ス靱負佐ト號ス

是年永井大膳尚征信濃守尚政嫡子従五位下ニ叙シ

右近大夫ニ任ス

是年永井尚保信濃守尚政二男従五位下ニ叙シ大和

守ニ任ス

是年加々凡直澄民部少捕忠澄男従五位下ニ叙シ甲

斐守ニ任ス

是年近藤登之助御先手ノ頭トナル与カノ士五騎足輕

五十人

是年 河窪主膳信雄後越前守 御使番トナリ同

是年 御書院番ノ組頭トナル

是年 齊藤三友後撰津守 御手水番トナル

是年 曾我又左衛門古祐後丹波守 御使番トナル

是年

是年 櫻井庄之助勝成御使番トナル

是年 高木主水正正成 命ニ依テ相州小田原

ノ城代トナル小田原ノ城元和九年阿部備中守武

リ御番城トナル

是年 小笠原壹岐守忠知采地五千石加賜舊領

并テ一万石ヲ領ス

是年 花房志摩守幸家伊勢山田奉行トナル

是年 水野元倫備後守元綱男後 始テ

將軍家ニ謁ス

是年 設樂兵庫頭貞清卒ス六十七歳

是年 伊達左近大夫宗實遠江守秀 始テ

両君ニ謁ス

是年 本多内記政勝出雲守 播州ノ内采地四万

石ヲ賜リ姫路ノ郭内ニ居ル同十五年十一月二十

不時ニ政勝其家督ヲ継ク命ニ依テ播州政朝卒

後

是年 松平大膳大夫忠重駿州田中ノ城采地ニ
万五千石賜ル外五千石同十一
年ニ加賜セラレ
是年

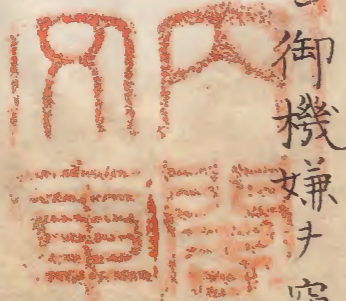
公御不豫ニ依テ春日局

將軍家ノ 台命ヲ奉テ御祈禱ノ爲メ江州多賀ノ社
ニ詣ル此次テニ佐和山ノ城ニ入テ城主井伊掃部
頭直孝ニ

將軍家ノ 御蜜意ヲ告テ江戸ニ歸ル直孝江戸ニ来
テ是ヲ拜謝ス

是年 諸大名例年ノ如ク休暇ヲ賜ルノ處ニ

公御不豫ニ依テ今年ハ江戸ニ在府仕リ御機嫌ヲ窺
ヒ奉リ度ノ旨是ヲ願フト云ヘ共在所ニ歸テ領國
ノ仕置申シ付ヘキノ由 仰出サレ、ニ依テ各歸
國ス家臣一人宛毎月江戸ニ差ニ越江御機嫌ヲ窺
フ



Handwritten Japanese text in vertical columns, including the characters 國書 and 一入, which are faintly visible in the center of the page.

